

モニタリング結果報告書

施設	神奈川県総合リハビリテーションセンター
指定管理者	社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団
施設所管課	保健福祉局 企画調整部 病院事業課

(平成22年度 上半期)

管理運営状況総括

1 月例報告によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考(確認事項)
4月	5月31日	6月10日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
5月	6月30日	7月12日	月報及び現地を確認。特に改善すべき事項はなし
6月	7月30日	8月10日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
7月	8月31日	9月21日	月報及び現地を確認。特に改善すべき事項はなし
8月	9月30日	10月15日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
9月	10月29日	11月15日	月報及び現地を確認。特に改善すべき事項はなし

2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

(1) 提案内容の達成度

A: 提案を上回る

B: 提案どおり

C: 提案を下回る

(2) 実施状況等

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績を記載する。

<提案内容の概要>

1 総合性・高度専門性の発揮

- リハセンターの一体的な運営の推進
- 福祉施設の機能充実
- 病院の機能充実
- 地域支援センター機能の充実
- 研究・開発機能の充実
- 地域の関係機関との連携強化への取組み
- 専門職員の育成

2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- 人権擁護と個人情報の保護
- 利用者サービスの向上対策
- 自己評価・第三者評価等の推進
- 安全対策の推進

3 効果的・効率的な運営

- 採算性に配慮した運営
- 収益の確保対策と経費の節減対策

<実施状況>

七沢療育園

1 総合性・高度専門性の発揮

- ・中期入所枠を9床とし、また、超・準超重症心身障害児の受入については、最大13.6床(計画8床)の受入を行い、在宅重心児者の支援を展開している。
- ・県の委託により重症心身障害児の巡回訪問を実施し、個人宅及び作業所などを訪問した。(実施回数76回、対象者数124名)
- ・重心親子教室を実施し、療育相談を行なった。(4回実施)
- ・厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会発達支援部会へ参加した。(2回)
- ・園内の研修について、看護科・支援課と共同で計画・実施した。(上半期12回)

2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・適正な対応が図れるよう、転倒防止の為の抑制チェックリストの作成を行った。
- ・個人情報保護、人権擁護等について、研修の他、朝のミーティング時に対応等への意識付けを行っている。
- ・苦情解決への取組みとして、毎月第三者委員による個人相談を実施している。
- ・よりよい施設運営に向けて、自己評価、利用者満足度調査の実施をした。
- ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。

3 効果的・効率的な運営

- ・療育訪問指導事業等で施設利用相談を進め、利用に繋げている(22年度上半期76回)

七沢学園

1 総合性・高度専門性の発揮

- ・日中支援機能の充実のため、実績状況の確認等による向上への取組みを進めている。
- ・在宅医療重度者の支援に向けた入所支援サービスに取り組んだ。
- ・県強度行動障害対策事業連絡調整会議への参加、訪問調査など強度行動障害事業へ取り組むとともに、神奈川リハ病院と連携し、SST手法等を取り入れた。
(SST手法とは、ソーシャルスキルトレーニングの略。知的障害者の社会生活力を高める訓練である)
- ・発達障害児に対する支援プログラムを整備するとともに、神リハ病院と連携しSST手法を取り入れた。
- ・在宅障害児の集中療育の支援プログラムを見直し、集中療育枠を拡大した。
(20年度3～4名→21年度4～5名→22年度8～9名)
- ・各児童相談所との連携、家族支援、児童への精神的ケアなど被虐待児への支援を行った。
- ・地域のイベントへの参加、実習生、ボランティアの受入れなど地域との連携を図った。

2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・職場内研修、職場外研修(中央,厚木児童相談所)、派遣交流研修などを実施した。
- ・金銭管理マニュアル、身体拘束マニュアル、投薬管理マニュアル等の見直しを行った。
- ・人権擁護対策チームを作り、人権擁護の意識向上の為研修、人権チェック等を実施した。
- ・苦情解決への取組みとして毎月第三者委員による個人相談を実施した。
- ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。

3 効果的・効率的な運営

- ・県内養護学校との業務連絡会、保護者会、短期利用制度等を利用して事業PRを行なった。

七沢更生ライトホーム

1 総合性・高度専門性の発揮

- ・一貫した医療と福祉サービスの提供に向け、障害別に連続したプログラムの作成に取り組んだ。
- ・社会生活力向上のため、疾患別、目的別にグループワーク等を利用して多種多様な支援プログラムを提供した。
- ・肢体不自由者に対して、就労自立セミナーや、健康管理に関するセミナーを開催した。
- ・視覚障害者の職業の紹介や、福祉機器や盲導犬の活用方法等のセミナーを実施した。
- ・高次脳機能障害への取組みの為、日中訓練、家族懇談会等を実施した。
- ・視覚障害者への訪問訓練を実施した。
- ・神奈川リハ病院と連携し、ロービジョン(低視覚障害)者を受け入れた。
- ・地域支援センターの主催する研修に講師として派遣するとともに、各地域の研修に職員を講師として派遣し、連携を図った。
- ・教員・保護者・当事者の見学希望、体験研修、実習等の積極的な受入れを行った。
- ・厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会の生活支援部に職員を派遣し、地域との連携を深めた。
- ・県内の社会福祉協議会や関係団体が主催するボランティア養成講習会等に職員を講師等で派遣した。
- ・職員の育成の為、積極的に福祉施設合同研修、神奈川リハ病院主催研修、施設外研修等に参加させた。

2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・人権擁護・虐待防止についての職員研修を実施した。
- ・苦情解決への取組みとして毎月第三者委員による個人相談を実施した。
- ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。

3 効果的・効率的な運営

- ・地域医療機関説明会、見学会などを実施し、利用率の向上に努めた。
- ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。
- ・地域の回復期リハ病棟を訪問し、利用者確保を図った。
- ・施設機能の広報及び利用者の開拓を目的に視覚障害者の生活訓練体験会を実施した。
- ・相模原病院、神奈川リハ病院、ライトホーム合同での生活訓練体験会を実施した。
- ・視覚障害部門オープンセミナーとして、利用者の拡大を目的に、医療関係者を対象に支援技術と施設機能の紹介を行なった。16名参加
- ・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態に努めた。

神奈川リハ病院

1 総合性・高度専門性の発揮

- ・急性期病院等とのネットワークの強化の為、東海大学医学部附属病院医療連携情報交換会を開催した。
- ・精神科外来におけるデイ・ケア等へ取組むため、対象者、治療目的等の具体的な検討を行った。
- ・高次脳機能障害者、頸髄損傷者に向けた就労支援の取組みを行なうとともに、地域就労支援機関等への助言・支援を行った。
- ・県内医療機関に勤務する理学療法士の卒後臨床教育へ取組んだ。
- ・脊髄損傷、高次脳機能障害、変形性股関節症(術中を含む)、小児脳損傷、脳血管障害にクリニカルパスにより、患者にとってわかりやすい医療を提供するとともに、平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化を図った。
- ・医師、栄養士、看護師等で構成する栄養サポートチームによる栄養療法、摂食・嚥下障害への対応を実施した。
- ・厚木病院協会地域連携委員会や、県西部MSW連絡会等の近隣医療機関との連絡会、自立支援協議会等に参加し、地域連携に取り組んだ。
- ・医療安全管理会議等が企画する病院内の専門研修を企画・実施した。

2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・病院機能評価を受審した。
- ・アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。
(4月から9月の苦情・要望に対する対応状況件数 79件)
- ・障害者歯科診療を実施した。
- ・禁煙外来による禁煙指導を行った。(禁煙外来延べ患者数 74人)
- ・医療安全対策の取組みとして、離院、離棟捜索訓練、医療安全研修等を行った

3 効果的・効率的な運営

- ・正規職員として、泌尿器科医師2人、内科医師1人、整形外科医師1人を採用した。
- ・利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。
 - ① 入院審査会(毎日開催)
 - ② Dr to Drの紹介患者早期受入れ
 - ③ 入院患者確保対策(42病院に対して病院訪問を実施、入院案内・申込書・入院までの目安日を67病院に郵送)
- ・ホームページや広報誌の充実に取り組んだ。
- ・請求もれ、査定減対策等の推進に取り組んだ。
- ・医薬品、診療材料等の廉価購入、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。

七沢病院

1 総合性・高度専門性の発揮

- ・入院患者の多くに何らかの高次脳機能障害を有しているため、臨床心理士、PT、OT、ST、看護師等による総合的アプローチを実施した。
- ・医療の質の向上を図るため、クリニカルパスによる入院から退院までの一貫した流れの図式化し、患者を含め情報を横断的に共有できることで入院期間の短縮やチーム医療の徹底が図られた。
《クリニカルパスの種類》
 - ・脳卒中リハビリテーション・クリニカルパス
 - ・生活習慣改善入院クリニカルパス
- ・生活習慣改善入院の機能により、脳卒中の予防に努めた。
- ・入院時栄養スクリーニングを全患者に実施し、栄養サポートチームにより定期的に病棟回診を行った。
- ・摂食・嚥下障害のある患者に対して、摂食・嚥下障害看護認定看護師と他職種と共に回診し、多角的な視点からアプローチを実施した。
- ・「摂食・嚥下外来」や「禁煙外来」の専門外来を実施した。
- ・県内医療機関MSWを対象とした見学会の開催、自立支援協議会の参加等で地域関係機関との連携を図った。
- ・脳血管疾患患者の早期受け入れに向けて、救命救急センターとの連携強化に取り組んだ。
- ・患者の人権擁護等利用者サービス向上のため、研修を開催し、医療従事者として必要な知識の向上に努めた。
- ・脳卒中地域連携パスの推進として、8つのグループに参加するなどの取組みを行った。

2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。
- ・入院患者の早期離床、ADL向上の促進のため、土曜日リハビリテーション訓練を実施した。
- ・リハスタッフと看護職員が連携し、病棟内リハビリテーション訓練を実施した。
- ・利用者満足度調査、自己評価等を実施した。
- ・新型インフルエンザ対応マニュアル等、医療安全マニュアルによる安全対策を実施している。

3 効果的・効率的な運営

- ・毎月施設の利用状況及び収入分析について経営会議で報告し、適切な施設経営に努めた。
- ・利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。
 - ① 入院審査会(毎日開催)
 - ② Dr to Drの紹介患者早期受入れ
 - ③ 入院患者確保対策(44病院に対して毎週空床情報をFAXで送付等)
- ・ホームページや広報誌の充実に取り組んだ。
- ・請求もれ、査定減対策等の推進に取り組んだ。
- ・医薬品、診療材料等の廉価購入、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。

その他

1 総合性・高度専門性の発揮

地域支援センター機能の充実

- ・綾瀬市のモデル事業により支援技術の均てん化を図るとともに、リハビリテーション専門相談を充実させた。
- ・新規研修の開催、出前研修を実施し参加しやすく工夫するなど専門職員研修を充実させた。
- ・ホームページや「地域支援センターだより(広報誌)」により、リハビリテーション情報の提供を実施した。
- ・一般県民等に向けたフォーラムを開催した。
- ・高次脳機能障害支援室を設置し、普及事業の充実として、巡回相談、関係機関コンサルテーション、地域ネットワークづくりに取り組んだ。

1 総合性・高度専門性の発揮

研究・開発機能の充実

・病院・福祉施設であるリハセンターとして、臨床的・実践的な研究・開発を推進している
(研究テーマ)

- (1) 障害児者におけるリハビリテーションアプローチに関する研究
- (2) 障害者に関する福祉学・医学的研究
- (3) 障害児者に関する計測的・工学的研究
- (4) 障害児者に関する移動及び姿勢制御等の研究
- (5) 福祉機器の開発及び評価支援システムに関する研究
- (6) 障害児者の生活の質に関する研究

他大学等との連携した研究

- 首都大学東京
「福祉のまちづくり」「4輪歩行車による要介護高齢者の歩行支援」
- 東海大学工学部
「表面筋電図の分析と義肢制御への応用に関する研究」
- 兵庫県立福祉のまちづくり研究所
「ロービジョン者に配慮した音と光を用いた歩行空間ユニバーサルデザインに関する研究」

学会発表(平成22年度)

- 日本機械学会
「表面筋電図を利用した手の動作認識と動作時の筋力推定」
※ 今年度の文部科学省科学研究補助に採択された研究課題
- 日本めまい平衡医学会学術大会
「口腔スプリント装着による顎・咬合異常患者の歩行変化」
- 日本義肢装具学術大会
「チルト&リクライニング式車いすの小回り性能向上と姿勢保持機能への工夫 -第2報-」
- 日本福祉のまちづくり学会
「4輪歩行車による公共交通利用調査」
「白杖による分支点案内等の点状突起計上の検出システムに関する研究」

3 収支状況

(単位:千円)

	収 入 額				支出額	収支差額
	指定管理料	利用料金 (前年同月料金額)	その他収入			
年間予算額	11,781,867	5,236,636	6,511,663	33,568	11,781,867	0
上半期計 (a)	5,657,977	2,339,381	3,298,559 (3,211,590)	20,037	5,461,722	196,255
下半期 (b)	0	0	0 (0)	0	0	0
4 月	893,982	319,122	574,366 (549,643)	494	832,220	61,762
5 月	799,918	259,437	536,593 (513,038)	3,888	748,638	51,280
6 月	1,479,395	942,754	533,909 (543,464)	2,732	1,556,860	△ 77,465
7 月	807,402	237,762	567,446 (567,253)	2,194	772,256	35,146
8 月	905,489	336,941	565,692 (546,997)	2,856	765,551	139,938
9 月	771,791	243,365	520,553 (491,195)	7,873	786,197	△ 14,406
合計 (a+b)	5,657,977	2,339,381	3,298,559	20,037	5,461,722	196,255

- 1 指定管理者の収入を記載する(県の収入である「使用料」は含まない)。
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見書

- ・半期計画の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。
- ・また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
- ・年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

収入状況(年間計画の50%を目安としている)
 利用料金収入は、年間計画(6,511,663千円)に対し3,298,559千円で50.7%の達成率となっている。
 福祉施設の利用実績は全体で減となっているが、児童施設の計画達成等により収入計画達成率は50.5%となっている。
 2病院の利用実績はともに減となっており、一日平均入院率は両病院で81.8%で、収入計画達成率は50.7%となっている。

支出状況(年間計画の50%を目安としている)
 支出について、人件費(給料・手当等のみ)は予算7,303,681千円に対し、3,619,012千円で49.6%の執行率である。
 物件費は予算4,014,042千円に対し、1,828,752千円で45.6%の執行率であり、事業計画減に伴う直接処遇費(医療材料費・給食材料費・寝具借上料等)の減により目安を下回っている。

(今期に行った資本的な収支及び支出の状況)

	内容	金額(千円)	
収入の状況	なし		
支出の状況	なし		
積立等の状況	総合リハ事業積立預金(将来の損失への備え等)1,519,026千円、退職給与積立預金1,655,810千円 合計3,174,836千円 【固定負債 退職給与引当金6,389,649千円(積立不足額 ▲4,733,839千円(6,389,649千円-1,655,810千円))】	期首	3,174,836
		期末	3,174,836

- 収入の状況:定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。
 支出の状況:車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。
 積立等の状況:積立・借入れ等がある場合は、その内容(施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等)、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

4 利用状況

(1) 七沢療育園(入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	6,960 人	6,873 人	1.3%
下半期計(b)	- 人	- 人	-
4月	1,122 人	1,156 人	△ 2.9%
5月	1,185 人	1,185 人	0.0%
6月	1,150 人	1,125 人	2.2%
7月	1,182 人	1,122 人	5.3%
8月	1,174 人	1,184 人	△ 0.8%
9月	1,147 人	1,101 人	4.2%

(2) 七沢療育園(地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	259 人	165 人	57.0%
下半期計(b)	- 人	- 人	-
4月	23 人	17 人	35.3%
5月	28 人	34 人	△ 17.6%
6月	32 人	27 人	18.5%
7月	55 人	25 人	120.0%
8月	68 人	26 人	161.5%
9月	53 人	36 人	47.2%

(3) 七沢学園(児童・入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	5,065 人	5,119 人	△ 1.1%
下半期計(b)	- 人	- 人	-
4月	807 人	861 人	△ 6.3%
5月	847 人	868 人	△ 2.4%
6月	840 人	839 人	0.1%
7月	857 人	868 人	△ 1.3%
8月	878 人	868 人	1.2%
9月	836 人	815 人	2.6%

(4) 七沢学園(児童・地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	604 人	590 人	2.4%
下半期計(b)	- 人	- 人	-
4月	72 人	41 人	75.6%
5月	73 人	76 人	△ 3.9%
6月	71 人	48 人	47.9%
7月	124 人	140 人	△ 11.4%
8月	187 人	170 人	10.0%
9月	77 人	115 人	△ 33.0%

(5) 七沢学園(成人・入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	12,895 人	12,397 人	4.0%
下半期計(b)	- 人	- 人	-
4月	2,200 人	2,011 人	9.4%
5月	2,248 人	2,089 人	7.6%
6月	2,101 人	2,004 人	4.8%
7月	2,139 人	2,139 人	0.0%
8月	2,138 人	2,144 人	△ 0.3%
9月	2,069 人	2,010 人	2.9%

(6) 七沢学園(成人・地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	167 人	202 人	△ 17.3%
下半期計(b)	- 人	- 人	-
4月	20 人	12 人	66.7%
5月	29 人	19 人	52.6%
6月	39 人	57 人	△ 31.6%
7月	20 人	23 人	△ 13.0%
8月	48 人	55 人	△ 12.7%
9月	11 人	36 人	△ 69.4%

(7) 七沢更生ライトホーム(入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	11,088 人	15,702 人	△ 29.4%
下半期計(b)	- 人	- 人	-
4月	1,957 人	2,663 人	△ 26.5%
5月	1,941 人	2,785 人	△ 30.3%
6月	1,833 人	2,597 人	△ 29.4%
7月	1,864 人	2,678 人	△ 30.4%
8月	1,794 人	2,574 人	△ 30.3%
9月	1,699 人	2,405 人	△ 29.4%

(8) 七沢更生ライトホーム(地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	1,099 人	797 人	37.9%
下半期計(b)	- 人	- 人	-
4月	132 人	121 人	9.1%
5月	140 人	121 人	15.7%
6月	175 人	138 人	26.8%
7月	184 人	143 人	28.7%
8月	240 人	131 人	83.2%
9月	228 人	143 人	59.4%

(9) 神奈川リハビリテーション病院(入院)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	42,787 人	45,042 人	△ 5.0%
下半期計(b)	- 人	- 人	-
4月	7,414 人	7,540 人	△ 1.7%
5月	7,286 人	7,563 人	△ 3.7%
6月	6,511 人	7,452 人	△ 12.6%
7月	7,072 人	7,800 人	△ 9.3%
8月	7,391 人	7,688 人	△ 3.9%
9月	7,113 人	6,999 人	1.6%

(10) 神奈川リハビリテーション病院(外来)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	41,179 人	42,668 人	△ 3.5%
下半期計(b)	- 人	- 人	-
4月	6,976 人	7,360 人	△ 5.2%
5月	6,185 人	6,543 人	△ 5.5%
6月	7,276 人	7,427 人	△ 2.0%
7月	7,110 人	7,684 人	△ 7.5%
8月	6,911 人	6,889 人	0.3%
9月	6,721 人	6,765 人	△ 0.7%

(11) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター(入院)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	35,757 人	35,308 人	1.3%
下半期計(b)	- 人	- 人	-
4月	5,997 人	6,245 人	△ 4.0%
5月	6,196 人	6,422 人	△ 3.5%
6月	6,011 人	6,254 人	△ 3.9%
7月	6,091 人	5,806 人	4.9%
8月	6,017 人	5,546 人	8.5%
9月	5,445 人	5,035 人	8.1%

(12) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター(外来)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	5,161 人	5,547 人	△ 7.0%
下半期計(b)	- 人	- 人	-
4月	869 人	967 人	△ 10.1%
5月	774 人	860 人	△ 10.0%
6月	928 人	942 人	△ 1.5%
7月	898 人	1,001 人	△ 10.3%
8月	873 人	895 人	△ 2.5%
9月	819 人	882 人	△ 7.1%

利用状況に関する意見等

〔 半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。 〕

〔 七沢更生ライトホームは、県の障害福祉計画に基づき、平成22年度から、50名の地域移行を実施し、定員を21年度の120人から70人へと縮小したため、入所率が下がっている。 〕

5 苦情・要望等の状況

(施設受付分)

(施設所管課受付分)

(1)七沢療育園

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
4月	3	0	0	0	0	3
5月	0	0	0	0	0	0
6月	3	0	0	0	0	3
7月	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0

報告月	口頭	文書	合計
4月	3	0	3
5月	0	0	0
6月	3	0	3
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	0	0	0

(2)七沢学園(児童)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
4月	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0

報告月	口頭	文書	合計
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	0	0	0

(3)七沢学園(成人)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
4月	0	0	0	0	0	0
5月	2	0	0	0	0	2
6月	0	0	0	0	0	0
7月	1	0	0	0	0	1
8月	1	0	0	0	0	1
9月	3	0	0	0	0	3

報告月	口頭	文書	合計
4月	0	0	0
5月	2	0	2
6月	0	0	0
7月	1	0	1
8月	1	0	1
9月	3	0	3

(4)七沢更生ライトホーム

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
4月	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0
9月	1	0	0	0	0	1

報告月	口頭	文書	合計
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	1	0	1

(5)神奈川リハビリテーション病院

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
4月	6	0	10	0	0	16
5月	9	0	6	0	0	15
6月	6	2	3	0	0	11
7月	9	1	2	0	0	12
8月	8	1	5	1	0	15
9月	3	0	7	0	0	10

報告月	口頭	文書	合計
4月	6	10	16
5月	9	6	15
6月	8	3	11
7月	10	2	12
8月	9	6	15
9月	3	7	10

(6)七沢リハビリテーション病院脳血管センター

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
4月	1	0	9	0	0	10
5月	1	1	10	0	0	12
6月	1	1	6	0	0	8
7月	1	1	3	0	0	5
8月	3	0	4	0	0	7
9月	0	0	7	0	0	7

報告月	口頭	文書	合計
4月	1	9	10
5月	2	10	12
6月	2	6	8
7月	2	3	5
8月	3	4	7
9月	0	7	7

6 特筆すべき苦情・要望及び対応状況

（類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。）

分野	概要	対応状況
施設・設備	・女子トイレのウォシュレットのノズルが汚い。	定期的に清掃するよう責任者に指示するとともに、引き続き入院生活を快適に過ごしていただくよう、他部分の衛生管理に注意することとし、ご理解頂いた。
職員対応	・新人看護師が病院内で大声を出して笑うのは非常識で不愉快である。	病棟科長に伝え、スタッフの教育指導に反映させること。また、今後の新人教育にも反映させること。これらをご本人に説明し、ご理解頂いた。
その他	・看護師の対応に感謝。	看護局長、病棟科長、外来科長より本人に伝える。今後の励みになることを、利用者に伝える。
	・医師の対応に感謝。	院長、医療局長より本人に伝える。今後の励みになることを、利用者に伝える。
	・作業療法士の対応に感謝。	院長、OT科長より本人に伝える。今後の励みになることを、利用者に伝える。

7 事故や不祥事等の発生状況

（利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、県庁改革課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。）

発生日	概要・対応状況等
月 日	なし

8 随時モニタリングの実施状況

（事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。）

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日	なし		
月 日			

9 上(下)半期の所見等

（1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。）

指定 管理者	<p>福祉施設の利用率については、身障施設が、県の障害福祉計画に基づき、50人の地域移行を行い、定員が21年度の120人に対して22年度から70人となっており、このため入所率が下がっている。</p> <p>今後、知的障害施設が来年度から20名の地域移行の実施となるため、下半期は入所調整を行う必要があるが、できうる限りの利用率の維持向上に努力していく。</p> <p>病院については、神奈川リハ病院が6月に利用率77.5%と落ち込んだが、外部医療機関等に向けてベッドの空き情報などの情報を発信し、回復を図った。</p> <p>一方でセンター全体としては、新経営計画改訂計画に基づく事業団独自の事業運営に取り組む、効果的・効率的な運営が図れた。</p>
施設 所管課	<p>（社福）神奈川県総合リハビリテーション事業団は、指定管理業務を効率的に実施するとともに、法人の効率的な運営に向け、新経営計画改訂計画（平成21年3月策定）に基づき、社会環境の変化や新たな課題に柔軟に対応した取組みを進めていることから、この計画が着実に推進されるよう、今後も指導を継続する。</p> <p>リハセンターの効率的な運用や安定的な収入確保の面から最優先の課題として認識している看護師確保対策であるが、リハ事業団が課題解決に向け積極的に取り組んだ為、21年度は看護師不足により稼働病床を制限して運用していたが、22年度は満床での稼働が可能となった。しかしながら看護師確保については全国の多くの病院が共通して抱える課題であることから、引き続き注視するとともに指導を継続する。</p> <p>また、神奈川リハビリテーション病院の病床利用率が低下していることから、利用率向上に向け今後とも指導を継続していく。</p>